

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	療育支援工房 荒江教室		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 23日 ~ 2026年 1月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	55	(回答者数) 10
○従業者評価実施期間	2026年 1月 23日 ~ 2026年 1月 31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 3日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している。	平日は毎日1時間の時間を設けて、支援の振り返りや生徒さんの変化、新たな目標設定、支援方針を職員全員で話し合いをして決めている。	ご利用が少ない生徒さんは、日々の振り返りの対象として名前が上がりにくい為、定期的な振り返りでこまめな振り返り等を意識的に行っていく。
2	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	毎日の朝礼で、生徒さんの姿の情報共有と学習の振り返りを行い、その生徒さんに合わせた支援方針の共通認識と支援方針を改めて考えたり周知している。また、その日の役割分担を確認して、送迎の漏れや、支援が薄くなるようなことが無いように徹底している。	共有当日に休みの職員さんには、基本議事録を見てもらって情報共有しているが、情報を早く正しく伝えるために、必要に応じて、口頭にて共有して行くことも工夫として出来ると思う。
3	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	生徒さんのご家庭や学校のお姿を、面談などで詳しく聞き、アセスメントを行っている。支援の中でサポートを出来ることや対策を考え、計画を作成している。また計画も保護者様にお伝えし、同意を得てサインを頂いている。	項目にない事であっても、伺えたことはアセスメント追記して、必要に応じて個別支援計画にも反映させていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	建物が古い作りの構造で玄関前と玄関から部屋に行くまでの2段階ずつの階段があり、バリアフリー化が難しい。	今は歩行が困難な生徒さんは、その場所だけ体を支えて、転倒しないような配慮をしたうえで階段の昇降をしている。段差を知らせるステッカーなどを貼り注意喚起する等工夫が出来る。
2	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	送迎する学校の数によっては、教室に残っている職員と生徒さんの人数が見合っていないことがある。	人員を増やすことと、教室にいる生徒さんの人数に見合った職員が教室に残れるように配置や送迎組を工夫していく。
3	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。	学校の送迎時に少し関わる機会もあるが、交流をするまでの時間を設けることは難しい。また、工房のご利用を外部に知られたくないご家庭もいらっしゃるため、交流を深めることは現状難しい事もある。	土曜日のイベントなので、外部の関わりがもっと持てるような企画を準備し、保護者様にもご理解いただいたうえでご参加いただくなどの工夫が必要。

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	療育支援工房 有田教室		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 23日 ～ 2026年 1月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	63	(回答者数) 13
○従業者評価実施期間	2026年 1月 23日 ～ 2026年 1月 31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 2月 2日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・職員間の情報共有ができています。	日々のミーティングを通じて、子供の様子や支援内容を職員間で共有し、支援の統一と質の向上に努めている。	日々の申し送りやミーティングに加え、支援の振り返りの時間を定期的に設け、支援方法や関わり方について職員間で意見交換を行う。共通理解を深めることで、より一貫性のある支援につなげていく。
2	・SSTを通じたコミュニケーション力の育成	SSTを日々の支援の中に取り入れ、あいさつなどの社会性、気持ちを言葉で伝えるなど、生活場面に即したコミュニケーション力の向上を図っている。	SSTの内容を日常の活動や生活場面と結び付け、学んだスキルを実際の関わりの中で繰り返し経験できるよう支援する。また、子どもの発達段階に応じた目標設定を行い、段階的なSSTの充実を図っていく。
3	・保護者様への報告、連絡、相談の早急な対応	送迎時や記録、面談等を活用し、日々の様子や支援内容を保護者に伝えることで、家庭と連携した支援を行っている。また、保護者様からの利用児に関する情報が入った場合は職員間で共有を行っている。	職員間で共有を行い、保護者の思いや困りごとを丁寧に把握する。家庭と事業所で情報を共有し、連携した支援につなげていく。また、対応する際に保護者様目線だけではなく、利用者の目線にもなって話を行う。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	人数や時間の制約により個別対応が難しい場面がある。	集団活動を中心とする中で、個別に丁寧な関わりが必要な子どもへの対応が十分に行えない場合がある。	集団活動の中でも個別の関わりが持てるよう、ミーティングを通じて活動内容や役割分担を工夫する。また、短時間でも一人ひとりと関わる時間を意識的に設け、子どもの状況把握と丁寧な支援につなげていく。
2	SSTで学んだ内容の日常場面への定着に課題がある。	SSTの場面では適切な関わりが見られる一方、日常の遊びや生活場面において、学んだスキルが十分に活かされていないことがある。	SSTで学んだスキルを日常の遊びや生活場面で活用できるよう、職員が意識的に声かけや振り返りを行う。場面に応じた具体的な言葉掛けを行い、成功体験を積み重ねられるよう支援していく。
3	支援の評価・振り返りが職員ごとに差が出ることがある。	情報共有は行っているものの、支援の振り返りや評価の視点について、職員間で捉え方に差が生じる場合がある。	支援のねらいや評価の視点について職員間で共有し、定期的なケース検討や振り返りの時間を設けることで、支援内容や評価の統一を図っていく。

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	療育支援工房 茶山教室 I		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 23日		2026年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23	(回答者数) 4
○従業者評価実施期間	2026年 1月 23日		2026年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 2日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	独自のカリキュラムとタブレットを行い、ワーキングメモリーの向上を目指している。	独自のタブレット学習ソフトを使用し、ワーキングメモリーの力を伸ばす学習を行っている。学習の記録や成果は、提供記録やタブレットデータとして保護者様に共有している。	
2	学習支援に力を入れ、宿題へのサポートを行うことで、保護者様のご負担を軽減できるよう支援している。	宿題への取り組みについて保護者様とやり取りを行う機会が多く、できる限りニーズに沿った学習支援を行っている。生徒さんの気分や体調、様子によって取り組めない場合もあるが、その際は状況を随時共有することで、保護者様の安心感につながるよう務めている。	
3			

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域交流が難しい。	生徒さんの特性や安全面への配慮に加え、コロナ以降の影響により行事や交流の機会が減少している。また、学習支援・生活支援を優先していることもあり、地域との交流が限られている。	生徒さんの特性や安全面に十分配慮しながら、少人数での外出活動や段階的な交流活動を取り入れることで、無理のない形で地域との関わりを広げていく。また、学習支援・生活支援と両立しながら、交流の機会の確保に努めていく。
2			
3			

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	療育支援工房 茶山教室Ⅱ		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 23日 ~ 2026年 1月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28	(回答者数) 10
○従業者評価実施期間	2026年 1月 23日 ~ 2026年 1月 31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月5日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	ワーキングメモリーの向上を図るカリキュラムやタブレットでの学習を行っている。	工房独自のタブレット学習のタスクを用いて、ワーキングメモリーの向上に特化した学習を行っている。また、それぞれの生徒さんの特性や成長過程に合わせたSST(ソーシャルスキルトレーニング)のカリキュラム学習を行っている。	
2	教室間での支援内容の統一化。	それぞれの生徒さんが利用する教室間で、どのような支援方法に取り組んでいくかを常に共有し、教室ごとに相違のない支援に繋げている。	
3	レスパイトと療育の両立。	ご家族の日々の疲れや悩みを解消し、生徒さんをお預かりすることでご家族の負担軽減を図っている。また、お預かりするだけでなく、その中で療育を行っている。	

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童館などでの地域の他の生徒さんとの交流の機会は少ない。	室内での療育を基本としている為、教室外での地域交流は難しいのが現状。	児童館などでの地域の交流は難しいが、外出イベント等での様々な施設の方との交流は可能であると感じている。
2	保護者会などの、保護者同士での交流の場が少ない。	それぞれの保護者様にもお仕事や事情がある為、交流の機会を設けることは難しい。	保護者様同士での交流や情報交換は難しいが、工房のホームページ内にあるブログなどの情報を公開することで、情報の発信は出来ている。
3			

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	療育支援工房 福重教室			
○保護者評価実施期間	2026年 1月 23日 ~ 2026年 1月 31日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	74	(回答者数)	6
○従業者評価実施期間	2026年 1月 23日 ~ 2026年 1月 31日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数)	9
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 12日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員研修を定期的かつ様々な立場の者に行うことが出来ている	入社後一定期間経った職員だけでなく所長に対しても上席の方々が研修の機会を設けてくださっている。	勤続年数の長期化が考えられる為、ベテランの職員に対しての研修や交流の機会を設け、支援の質の向上を目指していく。
2	保護者様との定期的な面談の中で、生活上の悩みに対する相談を受け、様々な方法で解決を図ったり助言、支援を行ったりしている。	面談の機会だけでなく、送迎時やLINE等の連絡の中で受けた相談に関して周知を行い、教室やエリア内での協議をした上で支援などに反映させていっている。	現実的に難しいが、保護者同士での各ご家庭の悩みや困り等交流の場を設けたり、それに対するのアドバイスが出来るような機会を求めたりされる保護者様もいらっしゃる為それが実現できればよりご家庭のニーズに沿った支援が出来るのではないかな。
3	日々の支援方針や計画作成、各月のイベント等運営上の様々な事項を各教室でミーティングにて行う時間を必ず設けている。	ミーティングをただの報告会にするのではなく、どういった支援がその生徒にとってより有効なのかを全職員で協議、支援、効果測定を行い成長につなげられるよう話し合っている。	各教室だけでなく、併用教室や土祝開所教室の職員間での情報共有や支援方法を検討できる機会があれば更に的確な支援の提供が出来るのではないかな。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	就学前に利用していた保育所や幼稚園等との連携をとってスムーズな環境の移行ができていない可能性がある。	時間確保の難しさや連絡調整の手段が少ない。	就学前の担当者会議等の機会にて生徒の教育に携わった各事業所の可能な範囲での参加や、保護者様に相談をさせていただいた上で利用されていた園や児発との情報共有をしていけばよりその生徒さんに対する理解を深めたうえで移行ができるのではないかな。
2	ご家庭に対しての家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)が行うことが出来ていない。	時間確保の難しさやトレーニングのカリキュラムが現状ない。	現状ペアレントトレーニングの企画や開催は難しいかもしれないが、面談の機会が半年に一度と頻度は少ない為、少し短いスパンで保護者様からの要望や悩み等を聞き、支援に反映できるような機会を設けることも重要だと考える。
3	土曜日に企画するイベント(外出イベント)の内容が偏りつつある。	職員の休憩時間の確保やスケジュール、生徒の特性等の問題でイベント先が限られている。	施設見学だけでなく、地域の交流会(クラブ活動等)と触れ合う機会を設ける等地域に開かれたイベントを企画することでイベント内容の幅を広げられるのではないかな。

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	療育支援工房 花畑教室		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 23日		～ 2026年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	92	(回答者数) 12
○従業者評価実施期間	2026年 1月 23日		～ 2026年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 3日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	SST（ソーシャルスキルトレーニング）の実施	紙面媒体のカリキュラム学習（SST）や育脳プリント、日々の関わりや振り返りを通して、コミュニケーション面を中心とした療育を実施している。	ミーティングにてSST内容の段階分けやねらいの明確化を行い、個々の課題により即した内容を選定・提供する。実践例を職員間で共有し質の均一化を図る。
2	ワーキングメモリーの向上	タブレット学習を活用し、ワーキングメモリー向上を目的とした課題に取り組んでいる。利用日数によっては、データを確認し、成長の可視化ができています。	データを個別支援計画やモニタリングにより積極的に反映し、保護者様へのフィードバックや支援内容の見直しにつなげる。
3	特性に合わせた個別支援計画の作成	職員ミーティング等で情報共有を行い、生徒さん一人ひとりに合わせた支援方針を検討・実践している。家庭との連携も大切にしている。	保護者様の意向をより具体的に支援目標へ落とし込む。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員体制	送迎対応の時間帯により、事業所内の待機職員が手薄になることがある。	送迎ルートや職員配置の見直しを行い、時間帯ごとで手薄になっている場合、必要に応じて調整を行う。
2	連携について	地域の保健・医療・保育・教育機関との直接的な交流や連携の機会がほとんどない。	地域機関との情報交換の場や連携の糸口を検討し、必要に応じて連絡体制の構築を図る。
3			

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	療育支援工房 原北教室		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 23日 ~ 2026年 1月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	58	(回答者数) 14
○従業者評価実施期間	2026年 1月 23日 ~ 2026年 1月 31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 13日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っていること。	日頃から送迎時に生徒さんの様子の報告に加えて家庭での状況の聞き取りなどおこなっている。個別支援計画更新面談時に学校での様子や家庭における家族との関わりについて情報をお伺いしている。	ご家庭で抱えている課題や保護者様の悩みについて聞き取りながら、ご家庭と事業所で連携した支援・関わりができるようにする。
2	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っていること。	職員ミーティングで事例を挙げる中で行動分析の視点も用いて生徒さんの行動の意図や要因を見立て、そこから必要な支援を検討している。	職員一人ひとりがより根拠の持った支援ができるように、ミーティングの中で事例検討を続けていく。
3	活動プログラムが固定化しないよう工夫していること。	事業所で提供しているカリキュラム学習では、生徒さんの取り組み状況や理解度に合わせて、提供する内容について定期的に職員間で検討している。	保護者様のご要望も聞き取りながら、今の本人に合った活動プログラム・カリキュラム学習を提供していく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域資源を活用した活動を計画すること。	平日のみ受け入れなど事業所の活動時間帯では利用が難しい施設があることや、外出イベント先として土曜日の混雑状況を鑑みて候補から外れてしまう施設もある。	生徒さんの安全を最優先に考えながらも、日頃から地域にある資源で活動に取り込めるものがあるか、視野を広げて検討していく。
2	外部研修の機会が少ないこと。	資格取得のための研修の機会が多いが、多業種経験の職員に対する外部研修の機会が少ない。	興味関心のある研修を職員間で共有する。内部研修として領域ごとの研修を実施するなど充実を図る。
3			

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	療育支援工房 飯倉教室		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 23日		～ 2026年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	38	(回答者数) 10
○従業者評価実施期間	2026年 1月 23日		～ 2026年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 3日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	事業所全体が広く、生徒さん一人一人のスペースを確保出来ていること	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレや学習室に行くまでの導線を塞ぐことを防止するための机を配置している。 ・生徒さんがぶつからないように、玩具ごとの遊び場所を決めている。 	遊ぶ玩具の種類や人数に応じて、机の配置を変えたり、遊ぶ場所を広げたりしていく。
2	学校との情報連携が密にできていること	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒さんのお迎え時に、学校での様子を伺い、異変などあった際は職員間で共有を行っている。 ・送迎方法(駐車場所・お迎え場所・到着時間など)を都度確認を行い、送迎時のトラブルを事前に防いでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校での様子に加えて、こちらからも工房での様子をお伝える。 ※保護者様から要望があり、了承を得ている場合のみ ・下校時間について変更の有無や、行事ごとのお迎え場所の変更などを都度こちらから確認していく。
3	月ごとに季節を感じる事が出来るイベントの起案	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント起案時は、他教室のエリアや直近のイベントの内容と被ることが無いように工夫を行っている。 ・クッキングイベントの起案時は、アレルギーの生徒さんに留意しながら、起案を行っている。アレルギーに該当する材料があれば、代替できる材料を探し、保護者様に確認を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントを通じて、集団行動を体験したり、季節を感じたりできるように起案を意識していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供すること	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの卒業生が、引っ越しや生徒さんが自立したことにより放課後等デイサービスのご利用する必要がなくなったという理由が多い為。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、障害福祉サービス事業所などに移行することになった場合は、情報連携を図っていく。
2	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がない	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒さんが来室した後は、基本的に事業所内で学習の取り組みや余暇時間で遊んで過ごしていただいている為。 	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会は作ることは難しいが、SSTでの学習や外出イベントを通して、対人コミュニケーション能力を伸ばしていく。
3	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっていないこと	<ul style="list-style-type: none"> ・プレイルーム、学習室の2つの部屋しかないため 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて、パーティション等を活用し、1人の空間を作っていく。 ・どちらかの部屋に他の生徒さんがいない場合は、職員間で連携を図り、1人で過ごすことが出来るように工夫を行っている。

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	療育支援工房 吉岐教室		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 23日 ~ 2026年 1月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	48	(回答者数) 9
○従業者評価実施期間	2026年 1月 23日 ~ 2026年 1月 31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月10 日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	支援開始前には職員間で必ず打合せを行っている。先日の支援の振り返りや当日の支援について確認し、共有を行っている。	管理者や管理職主導にならないように、他の職員全員が意見を言いやすいように努めている。また、定期的に環境の見直し、支援の見直しを行い、改善に努めている。	定期的に効果測定を行い、よりよい支援の質の向上を図ることができるようにする。
2	複数の教室と連携をしながら、受け入れ態勢や支援を行っている。	併用教室と連携を図り、共通の支援方針や情報共有を行い、統一した支援を心がけている。 また、送迎についても、他教室と協力し合い、調整を行っている。	
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用定員や子どもの状況に対して、職員の配置数が適切ではない。	利用人数に応じた人数配置数に課題である。送迎範囲や同じ時間帯に送迎に出る職員が多いと、待機職員が少なくなり、十分な支援ができにくい時がある。	他教室と送迎を協力しあうことで調整している。 人員確保が必要。
2	教室のスペースや設置が限られており、活動の場が制限されることがある。	建物の構造。	学習室、手洗い場、遊びの部屋を用途に応じて使い分け、環境調整を行っている。
3	事業所の地域社会との交流の場がない。	現状、地域の方々と交流を図る時間を確保することができにくい。また、交流するスペースの確保が難しい。	外出イベント等を通して、地域社会との交流の場が提供できるよう、どのような内容で交流するのか会社全体で検討する必要がある。

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	療育支援工房 今宿教室		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 23日 ~ 2026年 1月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	50	(回答者数) 11
○従業者評価実施期間	2026年 1月 23日 ~ 2026年 1月 31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	8年 2月 1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	それぞれの特性や困りごとの合わせた紙ベースでの学習とタブレット学習の取り組み	タブレット学習で分からないところや苦手のところを把握し、カリキュラム(紙ベース)学習にて詳しく丁寧に取り組みを行うことで苦手なところの克服や、得意なところを伸ばすことができる。	カリキュラムについては、面談のたびに保護者様にどこが苦手なのか得意なのかを聞き取りし、取り組み内容に反映させていくことでさらに充実を図ることができる。
2	生徒さんそれぞれに合わせた支援を行う人員配置	理学療法士や作業療法士、言語聴覚士が在中しており、それぞれの得意不得意に合わせた支援が行えている。	様々な道具を積極的に取り入れ、本人たちが苦手としていたところの克服や、見だせていなかった得意に気が付くことができるように支援を行う
3	保護者様との連携	トラブルがあった際や生徒さんとお話をしたことで涙を流したり、職員が事の危険性などを比較的厳しく伝えたことについては、保護者様にお伝えをするとどの教室でも認識がある。	トラブルがあった際に生徒さん本人から最初に聞くよりも、職員から正直に話して解決をしていることを伝える方が誤解が生まれにくいので、今後も小さなことでもトラブルについては必ず報告をする。 また、頑張ったことや初めてできたことなどがある際には生徒さん本人の前で保護者様にお伝えする。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	卒業後の生徒さんの進路についてサポートできていない	小学校から工房を利用しており、中学校に上がるタイミングでその生徒さんのために情報共有が必要ならばできることを保護者様や学校側にもこちらからお伝えができていない。	学年が上がるタイミングや環境が変わるタイミングで、情報共有が必要な場合は担当者会議を開催できることや協力できることがあると伝える必要がある。 面談時や送迎時にお伝えが可能。
2	人員不足	お迎えに行く小学校の数が多く、人員不足を感じることもある。また、帰りの送迎でもその日によっては職員の急遽の休みなどで人が足りずに6名を一人で送迎することもある。また、送迎範囲が広いことで複数台送迎を出すことがほとんど。交通状況によっては教室への戻りが遅くなることもある。	人員の補充 パートさんの時間を帰りの時間まで延長できないか検討 バイトの方の受け入れを行う
3	第三者からの評価の共有	内部での反省や共有などは行っているが、それが外部から見た時にどのような問題点があるのか、違う視点で見てもらうことで気が付けることもある。	運営指導などで指摘を受けたことに関して、全職員に開示したり、第三者からの意見を取り入れ会社全体で風通しの良い雰囲気を作る必要がある。

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	療育支援工房 今宿東教室		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 23日 ~ 2026年 1月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	74	(回答者数) 10
○従業者評価実施期間	2026年 1月 23日 ~ 2026年 1月 31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 13日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	学習室と遊び部屋が完全に別部屋となっており、利用者様が気持ちの区切りをつけたり、集中力の持続に役立っている。	学習中の利用者様がいる場合、遊んでいる利用者様が学習室へ入らないよう、職員が声掛けをして集中できる環境を提供している。また、学習をしている利用者様がいなくなると第二の遊び部屋として解禁し、遊びの幅を広げることができる。	学習室に仕切りがないため、玄関から入ってきた利用者様に対して、学習中の利用者様の注意が散漫になることがある。仕切りや扉をつけた方がさらに気持ちの切り替えがしやすくなると思う。
2			
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	バリアフリー化ができない。	建物の設計上の課題	ちいさな段差に対しては、板をはめ込んでいる。
2			
3			

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	療育支援工房 石丸教室		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 23日		～ 2026年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	70	(回答者数) 13
○従業者評価実施期間	2026年 1月 23日		～ 2026年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者との日々の連携。	<ul style="list-style-type: none"> ・送迎時の申し伝えや提供記録のみではなく、電話やLINE等の連絡ツールを用いることにより、保護者様がお問合せをしやすい環境にしている。 ・お便りや、HP内のブログ、Instagram等のSNSを活用し、事業所内の様子を積極的に公表している。 	保護者様側からの問い合わせだけでなく、こちらからもより積極的に連絡を入れることが出来れば良い。
2	事業所の職員間での連携。	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日午前中に職員ミーティングを実施しており、業務連絡だけでなく、利用児の様子や支援内容についても細かく共有や検討が出来ている。 ・また、定期的に管理者と職員での面談を実施しており、職員全員が働きやすい環境作りを徹底している。 	ミーティングの質をより高める為に、職員一人一人のスキルアップが出来るような研修を実施出来れば良い。
3	事故に対するリスク管理。	<ul style="list-style-type: none"> ・稟議をする際に、デメリットやリスクについて細かに挙げた上で検討している。 ・細かなことでもヒヤリハット報告書を作成している。 ・事故が起きた際、再発防止策を当事者のみではなくミーティングや他教室間で検討して決定している。 	ヒヤリハット報告書を作成することへのマイナス感情を無くすことが出来るように事業所全体での雰囲気作りをしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所内の設備、環境面のバリアフリー化が出来ていない箇所がある。	必要に応じて物品の購入などを行っているが、1軒家のため大規模な改修は難しい。	改修は難しい為、POP等の視覚的ツールや、細かい道具を活用し、利用者の障害の特性に合わせた環境設定を行い、バリアフリー化を目指していく。
2	地域社会への参加・交流があまり出来ていない。	外出イベントの際に交流の機会はあるが、「地域社会への参加・交流」を目的としたイベントは、利用者の障害の特性上のリスクや、ニーズ等の観点から実施出来ていない。	事業所で作成したアイロンビーズや段ボールなどの作品展等、実施出来そうな案はある為、利用者や保護者のニーズとして挙げた際に対応出来るよう、日頃から施設や地域団体等と連携を取り、体制を整える必要がある。
3	ペアレントトレーニングが不足している。	保護者様からの相談を受けたり、対応方法についての助言はしっかりと出来ており、保護者のニーズを満たすことは出来ている。しかし、利用児と保護者のニーズに相違がある時や、保護者の障害に対する理解が不足していると感じる時が多い。保護者に対してははっきりと言える体制作りが難しい。	事業所から直接言うことは難しい為、外部の研修等を紹介出来れば良い。ペアレントトレーニングについても、他社との提携を検討していく必要がある。

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	療育支援工房 次郎丸教室		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 23日 ~ 2026年 1月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	80	(回答者数) 15
○従業者評価実施期間	2026年 1月 23日 ~ 2026年 1月 31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	R8年2月13日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員間の連携	日々のミーティング等で職員から挙げた情報を教室内で精査し、支援につなげることが出来ている	新人職員への教育や研修を充実させ、全ての職員が多角的に生徒さんを見ることが出来るようにする
2	迅速な対応	相談やトラブルがあった際には、即座にテーブルに上げて回答が出来るようにしている	相談やトラブルは事例として記録し、同様の内容の際には迅速に対応できるよう務める
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	外部機関との連携不足	必要な連携は行っているが、積極的な連携が取れていないことがある	事業所内の課題を事業所内だけで解決しようとせず、必要に応じて外部機関との連携を図りながら支援を行っていく
2	支援コミュニティの規模	地域との交流の機会を作ることが出来ていない	生徒さんのコミュニケーションの場の提供の観点からも、地域との交流ができるイベントの企画方法を模索する
3			

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	療育支援工房 姪浜教室		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 23日 ~ 2026年 1月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	63	(回答者数) 15
○従業者評価実施期間	2026年 1月 23日 ~ 2026年 1月 31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	毎月外出イベント、制作イベント、クッキングイベント、季節イベントを企画し、利用者が楽しめる環境を作っていること。	利用者が純粋に楽しめるよう、今まで行ってきたイベントを通して出た反省点やよかった点を活かしながら企画している。	怪我等のリスク管理を行いながら取り組みを行う。
2			
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員の人数が少ない時がある。	感染症などの理由で休まれる職員もいるため、少なく感じる。	入社しやすいように改善している。
2	教室内が狭く感じる。	利用者が使用できる部屋が狭いため。	用途ごとに部屋を分けている。
3			

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	療育支援工房 南庄教室		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 23日 ~ 2026年 1月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	52	(回答者数) 6
○従業者評価実施期間	2026年 1月 23日 ~ 2026年 1月 31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 2日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	適切な支援の提供	日々ミーティングを行い、利用児の支援に関する共有を行っている。その中で児童発達支援管理責任者を中心に個別支援計画の見直しの時間を設け、利用児が成長出来るような支援の提供を行っている。	利用児の特性や強みを把握し、様々な支援の手立てを提供できる支援員を育成していく。
2	環境・体制整備	利用児が痙攣を起した際やクールダウンが必要な際に職員見守りの元、別室を使用している。	利用児が施設で活動する上で戸惑いを感じている部分を敏感に察知し、安心して過ごせる手立てを講じる。
3			

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	玄関に向かうまでに階段がある。	施設の構造上。	玄関までの階段の上り下りが生じるが、職員が付き添い、怪我・事故の防止に努める。
2	保護者交流会や周辺地域、他施設と交流する取り組みを行っていない。	個人情報取り扱いの観点から行っていない。	適切に個人情報を取り扱える方法が検討できれば、外部との交流の機会も作っていきたい。
3			

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	療育支援工房 室見教室		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 23日		～ 2026年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	66	(回答者数) 9
○従業者評価実施期間	2026年 1月 23日		～ 2026年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 13日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	会社主導で定期的に社内研修や、資格取得に向けた研修参加を行うことが出来ている事。	研修の時間を月・週ごとに策定して、どの職員も受けられるように工夫をしている。 教室数が多い分、様々な状況が想定され、経験をされているので、情報共有を積極的に行っている。	職員同士の交流を増やし、教室に還元する。
2	職員同士の仲が良く、分け隔てなく交流できているため、その雰囲気が生徒さんにも伝わり、比較的楽しい雰囲気の中サービスを受けることが出来る。	仕事の話だけではなく、それぞれの職員の好きな事や得意なことを話すことで、支援の際に生徒さんとのやり取りの中で色々な職員から色々な職員の話しが出てくるようにしている。	ミーティングで生徒さんの反応を共有し、次回に活かせるようにしている。
3	規律を重んじる雰囲気があるので、ダメなことはしっかりと指導して、その後のケアも含めて行うことが出来ている。	安全第一を踏まえた上で、生徒さん達が一人で社会に出た時に何に困るかを考えてフォローをしている。	ミーティングで生徒さんの反応を共有し、より良い支援方法を考え、次回に活かせるようにしている。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員の入職からの歴が浅く、新人が多い点。	職員の退職。	所長と職員の定期的な面談に加え、細かい話し合いを来る返す必要がある。さらに、研修を適宜行う事でスキルアップを行う。
2	集団でSSTなどの活動が出来ていない。	長期休暇中のプログラムの策定と実行が出来ていなかった。	SSTの担当者決めと、取り組み内容の具体化。
3	運動をさせてくれないかという要望に対応していない。	工場の強みの保護者への説明が不足している。	日々の記録や報告の中で、運動以外での成長を適切に報告する。

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	療育支援工房 長住教室		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 23日		～ 2026年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	89	(回答者数) 19
○従業者評価実施期間	2026年 1月 23日		～ 2026年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 4日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・個別の支援方法を教室全体で取り組むことができる。	・毎日MTを行い、改善点を共有し個別に支援内容を立てることができている。 ・生徒さんに合わせた支援を心がけ環境整備を行っている。 ・職員全員が実行できる方法を考え実行している。	・他教室と連携を図り、情報収集を行うことで更に幅広い支援を行えるよう取り組みを行っている。
2	・保護者様に対して支援内容を丁寧にお伝えでき、支援を行っている。	・生徒さんに関する新たにできるようになったことや改善点をお送り時やお電話、LINEにて日々お伝えしている。 ・保護者様からの要望に即時に対応し、安心してご利用できるよう心がけている。	・日々の記録では伝わりづらい内容は口頭でお伝えし、日々の様子がわかるよう取り組みを行っている。
3	・研修内容が充実している。	・勤務年数ごとに各レベルに合わせた的確な研修が定期的に行われることにより常に意識向上に繋がられている。	・教室間で交換研修を行うことにより各教室の良い所を取り入れ、職員のスキルアップに繋げられる取り組みが行われている。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・地域との連携や保護者様のみに対してのケアなどの活動は行っていない。	・個人情報の兼ね合いや事業所として受け入れられる範囲の兼ね合いにより難しい。	・保護者様とは日々の情報共有にて聞き取りを行いながら対応している。 ・地域との連携はイベントを通じて行えるよう企画を行っている。
2			
3			

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	療育支援工房 中尾教室		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 23日 ~ 2026年 1月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	54	(回答者数) 15
○従業者評価実施期間	2026年 1月 23日 ~ 2026年 1月 31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月6日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	本児一人ひとりの特性や発達段階に応じた個別支援計画を作成し、日々の支援内容に反映している点	保護者の思いや要望を定期的に確認し、支援計画や日々の関わりに反映できるよう努めている	モニタリングや評価の視点をより明確にし、支援の成果や課題を客観的に整理していく
2	職員間での情報共有や声かけを重視し、チームで支援を行う体制が整っている点	日々の支援記録をもとに、支援内容や関わり方について職員間で共有・検討する機会を設けている	職員研修や事例検討の機会を増やし、支援の質の向上と共通理解を図る
3	学習支援・SST・自由遊び等を通して、生活面・社会性・学習面をバランスよく支援できている点	SSTや日常の関わりの中で、具体的な言葉かけや視覚的支援を取り入れ、理解しやすい支援を心がけている	本児の強みや得意なことに着目した支援内容をさらに充実させ、自己肯定感の向上につなげる

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	本児一人ひとりに合わせた支援を行っている一方で、支援方法や関わり方に職員間で差が生じることがある点	職員の経験年数や専門性に差があり、支援に対する視点や判断基準が異なること	支援の考え方や対応方法について、事例検討やミーティングを通して共通理解を深めていく
2	保護者や関係機関との情報共有において、タイミングや方法にばらつきがある点	職員ごとに判断して連絡を行う場面が多く、経験や認識の違いによって連絡のタイミングに差が生じていること	保護者や関係機関への情報共有の方法やタイミングを整理し、連携をより円滑にしている
3	支援内容や記録が個々の職員に依存しやすく、共有や統一が十分でない場面がある点	業務量が多く、職員間で支援内容を整理・共有する時間を確保しにくい体制であること	職員研修やOJTを充実させ、支援の質の底上げを図る

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	療育支援工房 西新教室		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 23日 ~ 2026年 1月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	61	(回答者数) 11
○従業者評価実施期間	2026年 1月 23日 ~ 2026年 1月 31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月4日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	生活空間が清潔で心地よく過ごすことができる環境になっており、生徒に合わせた環境を設定している。	毎日掃除や除菌を行うことで生徒が来る前に清潔な環境を作るよう心掛けている。 また、自由時間に使うおもちゃや絵本などもリクエストがあればそろえるようにしている。	今後も掃除や除菌等は行っていき、清潔感ある教室を目指していきたい。さらに生徒が教室をしっかりと活用出来るように机の配置などにも注意していきたい。
2	ミーティングを通して生徒の情報を共有し、教室全体で連携が取れるようにしている。	毎日のミーティングの中で前日の生徒の様子やトラブル等を共有し、次回どのようにしてトラブルを防ぐか、どのように生徒と関わっていくか情報交換を行っている。	教室間だけでなく契約教室全体で生徒の様子や情報を交換していき、よりよい支援に繋げていく。
3	虐待防止、嘔吐物処理などの感染対策、安全管理や緊急時の対応など研修や情報共有を行い職員全員が対応できるよう心掛けている。	研修を行った後にやり方に違いはないか、昨年と変わったところはないかなど確認し職員全員の認識を統一している。	今後も研修等続けていき、実際に起こった時にどう行動するかなどロールプレイも兼ねていきたいと考える。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	教室内全体のスペースが狭く、利用生徒が多い日は1人当たりの活動範囲十分確保できない日程がある。	教室内全体のスペースが狭く、1つ1つの部屋もスペースを確保するためには十分な広さがないことが要因の一つであると考え。	職員が十分に見守りを行える時は、1つの部屋ではなく2～3の部屋に分けて生徒に過ごしてもらっている。
2	死角が発生する場所が多い。 1階と2階を生徒の利用スペースとして使用しているため、送迎等で職員が少ないときは利用を制限せざるを得ない場合がある。	教室の作りの影響で全ての部屋を見渡せる場所が少ない。1階と2階で活動を分ける場合があることも要因の一つであると考え。	死角が発生し、待機している職員が十分に生徒を見守れない場合は、自由時間を過ごす生徒、学習をしている生徒を集めて他職員が送迎等から戻ってくるまで1つの教室内で見守りを行う等工夫している。
3	第三者からの評価や研修を通しての振り返りを等を通じて業務改善等に活かしていない。	職員一人一人が様々な業務を行ってもらっているなかで、研修や外部からの評価に対して、振り返りや業務改善を行うにあたっての話し合いの時間が取れていないことが要因であると考え。	ミーティング等で振り返りの時間を設けるなど、業務改善の為に話し合いの時間を書く方していく。

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	療育支援工房 西高宮教室		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 23日 ~ 2026年 1月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	48	(回答者数) 10
○従業者評価実施期間	2026年 1月 23日 ~ 2026年 1月 31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 9日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・効果測定を行うことで、対象の生徒さんの課題を明確にし、課題に沿った支援方法を考え、教室全体で統一した支援ができていること。	・他業務の兼ね合いでミーティングが実施できない日もあるが、トラブルや生徒さんの気になる様子はその日のうちに必ず所長に報告し、全体で共有する場をお受けている。	・支援内容の充実を図るため、長期休みを利用して効果測定を行う。 ・支援や振り返りの時間を確保する。
2	・特性にかかわらず寄り添い続け、継続的な関わりを大切にしている。	・困りごとのサインを見逃さず、行動のみで判断しないようになっている。 ・よくない言動の後、長い時間振り返りを行うことは避け、短く落ち着いた声で対応している。	・全職員が1対1の対応をできるようになる。
3	・保護者の要望に柔軟に対応できている。	・LINEで連絡を取り合うことで保護者と密接に関わることができ、情報共有がしやすい環境となっている。	・LINEや提供記録でのお伝えはもちろんのこと、場合によっては電話や対話でのお伝えにするなど、情報共有の手段を使い分ける必要がある。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・職員の送迎時間が長く、支援できる時間が十分でない日がある。	・送迎範囲が広く、学年も違うことから下校時間にばらつきがある。	・教室ごとにお迎えに行く学校を決める。
2	・地域との交流	・機会が設けられていない。	・外出イベントの機会を活用して、地域の方々と連携できるよう企画をする。
3			

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	療育支援工房 野方教室		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 23日 ~ 2026年 1月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	75	(回答者数) 16
○従業者評価実施期間	2026年 1月 23日 ~ 2026年 1月 31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 13日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	ワンフロアであることで部屋は区切りづらいが、周りが遊んでいる環境下で学習を行うことを継続することで集中力の向上や同じような環境に適応しやすくなる	部屋の半分が学習の生徒、もう半分が余暇時間の生徒が過ごせるよう職員が事前に生徒の誘導を行い、学習がしやすい環境づくりを行っている。	
2	毎朝ミーティングにて生徒の様子や行動に対する分析を職員間にて行い、統一した支援を行なっている。	職員が話しやすい環境づくりをしている。 必要に応じて期間を決めた効果測定を行っている。	
3	生徒が楽しみながら社会性を学べる土曜日イベント(制作・外出・クッキング)の考案を職員全員で行っている。	ミーティングで意見を出し合い、職員間で内容の向上・改善に努めている。 手先が鍛えられるような制作・クッキングイベントの立案をしている。 外出イベントでは生徒の学びになるところを立案している。	

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ワンフロアであり部屋が区切りにくい為、場合によっては学習中の生徒が集中しづらい環境になってしまう。□	部屋を区切ることができない。	学習時に生徒の特性に応じて必要であれば壁側の机に誘導し、視覚的に周りが見えないようにする。 学習への気持ちの切り替えがどうしてもできない場合には必要に応じて個室での対応を行う。
2			
3			

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	療育支援工房 小笹教室		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 23日 ～ 2026年 1月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	41	(回答者数) 4
○従業者評価実施期間	2026年 1月 23日 ～ 2026年 1月 31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	支援についての職員間の意見交換について	支援についての意見交換を行う際に、職員全員が意見を出しやすいうようにどんな意見も否定をせず、全員で検討している。	全員が建設的な意見を出すことが出来るように日々の支援や研修の機会を通して職員の能力向上を図っていく。
2	支援の統一について	対応する職員がそれぞれの強みを生かしながらも生徒さん1人ひとりに対する支援のベースは全員が共通認識をもって支援にあたることができている。そのためにも、ミーティングで意見を出し合いながら職員中心で話し合う時間を取っている。	職歴や経験値の違いによらず、全員が一定のレベルを担保することが出来るように職員教育をより一層徹底していきたい。
3	リスク管理について	支援中や送迎中などにイレギュラーやトラブルが起こった際の対応方法について職員全体で確認することができている。ミーティング時などに事案の振り返り、対応方法の確認を行い、必要であれば、対応について管理者主体ではなく、職員主体で考える時間を設けている。	トラブルが起こった際の報告先として複数提示し、優先順位をより明確に共有し、何があっても慌てずに対応できるようにする。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	災害時の対応について	昨年度の課題として感染症対応についても課題として挙げたが、今年度は実践の機会がいくつかあったため、迅速に対応することが出来た。支援の提供時間中の災害については引き続き訓練は行っているものの、実践の機会に乏しいため、不安が残る。	定期的な訓練以外にも月や週単位で対応について振り返りを検討する。また、近年の気象状況なども考慮して季節ごとに対応を検討が必要なものも考えていきたい。(例：夏はゲリラ豪雨や雷など)
2	他事業所との連携について	担当者会議などの定められた機会しか他事業所との交流の機会がない状態となっている。その反面、担当者会議では工房の特色や支援方法を踏まえた上での様子の変化などをわかりやすく共有することを意識している。	あくまで利用者とその保護者様の個人情報保護を前提として、より一体感を持った支援をすることが出来るように他事業所との交流の機会も検討が必要となるかもしれない。
3	保護者様同士の交流について	現状では父母会等は行っておらず、保護者様同士の交流をする場を提供はしていない。稀に他事業所との比較で保護者様から父母会などはないのかお問い合わせされることはあるものの、現状では、開催を望む要は声は聞かれていない。	要望があれば、当該の方のご意見をお伺いし、適切な対応をしていきたい。

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	療育支援工房 下山門教室		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 23日 ~ 2026年 1月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	51	(回答者数) 8
○従業者評価実施期間	2026年 1月 23日 ~ 2026年 1月 31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 3日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	療育に特化したSSTを用いて生徒にアプローチをしている。	生徒ごとに、どの部分に苦手意識を持っているのかをミーティングで挙げ苦手克服・課題解決をするためにSSTを用いているところ。 その後、実践に繋げられる場面があった際は、取り組んだ内容を振り返りながら支援を図っている。	併用で利用している他教室から情報収集を行いよりよい支援を検討している。 また、都度、保護者様に共有していく。
2	虐待を防止するために、職員の研修機会を設けている。	決められた月に、研修動画を見て、レポートを提出してもらっているところ。	外部で研修があれば、参加を検討していく。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	どのように周知するのか。 開催する場所の確保。 いつするのか？	時間と場所の確保。どのような内容で交流をするかを検討する必要がある。
2	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	どのように周知するのか。 開催する場所の確保。 いつするのか？ 誰が地域活動の情報収集をするのか。	時間と場所の確保。どのような内容で交流をするかを検討する必要がある。
3			

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	療育支援工房 昭代教室		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 23日		～ 2026年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	41	(回答者数) 10
○従業者評価実施期間	2026年 1月 23日		～ 2026年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 4日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	その日の利用者を職員間で話し合いを行い、次の支援に向けてどのようにしていくのか話し合いを行っていること。	職員全員に意見する機会を設け、どのように対応を行ってどんなふうな反応だったのかなどをそれぞれに聞き、その職員さんが思う対応方法を確認して、今後の支援方法を決めている。	効果測定のある生徒さんは期間を設け、職員間で1つの視点で支援を行い、どのように変わったのかなどを話し合い、職員全員で目標が一致して支援できるようにしていく。
2	保護者様にその日の様子などを詳しく説明し、申し送りが出来ている。	申し送り時に保護者様がその日の利用の様子について絵が浮かぶように説明を行い、ご自宅や学校の様子についての様子について伺う。また、保護者様と同じ方向性を確認できるように行う。	面談時などを通してより学校やご自宅の様子を伺い、支援中に行っている方法などの共有を行う。またご自宅の様子について伺えたことに対して工房で出来ることを考えて答えられるように行い、共通に認識で入れるように連携を取っていく。
3	感染症や虐待などの研修を通して職員の意識を高めることが出来ること。また、避難訓練などを通して職員の動きや生徒さんも都度確認することが出来るため、よりどのように動いたらいいのか把握することが出来る。	感染症であれば、感染のリスクや感染対策などの観点をもとに動画研修を行っている。動画研修をすることにより、支援にもつなげることが出来る。	研修を職員と意見交換を行うことにより、色々な職員の意見を取り言えることができ、職員全体でそれぞれの研修の内容の把握をすることが出来る。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用店員が発達支援室等のスペースとの関係について	教室によって広さは違うが、スペースが狭い教室もあり、生徒と職員でいっぱいになり、送迎だけで終わることもある。	教室によって広さは違うが、スペースが狭い教室もあるため、それぞれの教室の使い方を錯誤していく必要がある。
2	事業所の行事に地域住民を招待するなど、地域に開かれた事業運営	外出イベントなどでその地域に行き、体験などを行うことはあるが、地域の方を招待することは出来ていない	地域の方と交流が持てるようにイベントの取り組みが出来るといいかと思われる
3	放課後児童クラブや児童館との交流や地域の他のこどもと活動する機会	外出イベントはあるが、外で遊んだりすることはないため、交流を持つことがない	イベントにて交流会などが出来るといいかと思われる。

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	療育支援工房 田島教室		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 23日 ~ 2026年 1月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	90	(回答者数) 12
○従業者評価実施期間	2026年 1月 23日 ~ 2026年 1月 31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 4日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・ワーキングメモリの向上を目的としたカリキュラム学習とタブレット学習を行っている。	・独自のタブレット学習ソフトを使用し、ワーキングメモリの向上に特化した学習を行っている。タブレット学習で得られたデータを保護者様にも共有を行っている。	
2	・保護者様のニーズに合わせて宿題等の学習補助を行い、保護者様のご負担の軽減を図っている。 また、室内活動を中心とし、室内で落ち着いて過ごす事や他者との距離感を意識しながら過ごせる様に支援を行っており、OT、PT、STによる専門的支援の実施も行っている。	・保護者様のニーズに合わせて宿題等の学習補助を行い、保護者様のご負担の軽減を図っている。 ・また、室内活動を中心とし、室内で落ち着いて過ごす事や他者との距離感を意識しながら過ごせる様に支援を行っている。 ・専門支援も個々課題やニーズに合わせて取り組みを継続的に行っている。	
3	・複数の教室で連携をしながら、ニーズに応じた受け入れ態勢や包括的な支援を行っている。	・併用教室と連携を図り、出来る限り利用者様のスケジュールやニーズに応じた日数をご利用いただける様な受け入れ態勢を整えている。 また、併用教室とも連携し、共通の支援方法や情報共有を行っている。	

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・地域との交流活動の機会は少ない。	・室内活動や学習補助のニーズへの取り組みを重視している活動特性上、地域との交流をする機会は少ない。 ・個人情報等の観点から考えると教室のすぐ近くの住民との交流機会を作るのは難しい部分がある。	すぐ近隣の地域との交流と考えると難しさはあるが、福岡全体を地域と考えて、教室所在地位から離れた地域のイベント参加や交流も含めて検討を行う。
2			
3			

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	療育支援工房 友丘教室		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 23日 ~ 2026年 1月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	67	(回答者数) 13
○従業者評価実施期間	2026年 1月 23日 ~ 2026年 1月 31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 9日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者との密な関係性と継続的な連携から生まれる、個性性の高い支援	<ul style="list-style-type: none"> ・送迎時や連絡ツールを活用し、日々の様子や小さな変化も共有している ・面談やモニタリングを通して、保護者の不安や意向を丁寧に汲み取ることを大切にしている ・家庭での様子と事業所での様子をすり合わせ、支援内容に反映している 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の声を定期的に振り返り、支援計画や対応方法の見直しにつなげる
2	職員間の連携力と、チームとして支援を考える体制	<ul style="list-style-type: none"> ・日々のミーティングを通して、支援の方向性を共有している ・困り感のある場面については、複数職員で意見を出し合い対応を検討している ・教室間での情報交換を行い、支援の幅を広げている 	<ul style="list-style-type: none"> ・事例検討の時間をより計画的に確保する
3	研修体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・複数教室合同での研修や情報共有により、職員のスキル向上を図っている ・経験年数や役割に応じた学びの機会を意識的に設けている 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修内容を日々の支援にどう活かすかを振り返る機会を増やす

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	他事業所や関係機関との連携が限定的である点	<ul style="list-style-type: none"> ・日常業務が中心となり、外部との関係づくりに十分な時間を確保しにくい ・教室単位での支援が主となり、外部との接点が少なくなりやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源や関係機関とのつながりを整理し、必要に応じて活用できる体制をつくる
2	地域資源や交流機会に関する情報把握が十分でない点	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の支援や教室運営を優先しており、地域で行われている行事や交流機会について把握する機会が限られている ・保護者会や地域イベントについても、実施状況や参加ニーズを十分に整理できていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や関係機関で行われている取組について、必要に応じて情報収集を行う
3	日常的な支援内容や専門的な関わりが、外部に伝わりにくい点	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の個別支援や関わりの工夫、支援の意図などは、外部に向けて発信する機会が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報に配慮しながら、支援の工夫や関わりの視点を共有する方法を検討する

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	療育支援工房 鳥飼教室		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 23日 ~ 2026年 1月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	45	(回答者数) 4
○従業者評価実施期間	2026年 1月 23日 ~ 2026年 1月 31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	R8年2月4日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員間での情報共有と連携を重視し、支援前後のミーティングや記録を通して、チームで一貫した支援を行っている。	支援開始前後のミーティングや記録を通して、支援内容・役割分担・留意点を職員間で共有し、チームで一貫した支援を行うことを意識している。	研修の機会を計画的に確保し、職員の専門性や支援力の向上につなげていく。
2	生徒一人ひとりの特性や状況を踏まえ、個別支援計画・モニタリング・記録を通して支援内容の見直し・改善を行っている。	日々の提供記録や振り返りを継続し、生徒の変化や支援の効果を確認しながら、支援内容の調整や改善につなげている。	記録内容や情報共有の方法を整理し、モニタリングや支援計画の見直しに、より活用できる体制を整えていく。
3	安全管理・虐待防止・緊急時対応等について、マニュアル整備と職員間の共通理解を図り、安心・安全な支援体制を整えている。	安全管理、虐待防止、緊急時対応についてマニュアルを確認し、職員間で共通理解を図りながら、安心・安全な支援を意識して行っている。	保護者や関係機関との連携をさらに深め、意見や要望を支援内容や事業運営に反映できるよう取り組んでいく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員配置や業務体制の都合により、十分な時間確保が難しく、研修・振り返り・外部評価等を計画的・継続的に実施しきれていない。	職員配置や日々の業務が多岐にわたる中で、研修や振り返り、外部評価等に十分な時間を確保することが難しく、計画的・継続的な取組が行いにくいことが要因となっている。	研修や事例検討、振り返りの時間を計画的に確保し、職員の専門性向上や支援の質の安定につながる体制づくりを進めていく。
2	地域・関係機関との連携について、必要時の情報共有は行っているものの、定期的な連携や交流の機会が十分とは言えない。	地域や関係機関との連携については、必要に応じた対応が中心となっており、定期的な情報交換や交流の機会を設ける体制が十分に整っていないことが要因である。	地域や関係機関との連携について、情報共有の方法や機会を整理し、継続的な連携が図れる体制づくりに取り組んでいく。
3	保護者・家族支援や説明・参画の機会について、個別対応は行っているが、父母の会等を十分にできていない。	保護者や家族支援について、個別の相談対応は行っているものの、父母の会や家族支援プログラム等を実施するための仕組みや時間の確保が難しいことが要因となっている。	保護者や家族への説明や参画の機会を見直し、家族支援の在り方について段階的に整理・充実を図っていく。